

## チョン・キョンファ／鄭 京和 (ヴァイオリン)

Kyung-Wha CHUNG, Violin

当代屈指の演奏家として世界中にその名を馳せているヴァイオリニスト、チョン・キョンファは、豊かな感性と完璧なテクニックをもって、素晴らしい演奏を聴かせている。音楽を愛する家庭に生まれたキョンファは、ニューヨークのジュリアード音楽学校で巨匠イヴァン・ガラミアンに師事、また後にヨーロッパではヨゼフ・シゲティの薫陶を受けた。1967年、エドガー・レヴェントリット国際コンクールで第1位となり名声を高める。その後1970年、アンドレ・プレヴィン指揮ロンドン交響楽団との共演でヨーロッパ・デビュー。プレヴィン、ショルティ、テンシュテット、ムーティ、ハイティンク、マゼール、バレンボイム、アバド等の指揮のもと、世界各地で一流のオーケストラの演奏会に登場している。リサイタルでは、ピアニストのルプー、ツィメルマン、フランクル等と共演、弟で指揮者兼ピアニストのチョン・ミョンフン、姉でチェリストのチョン・ミョンファとはチョン・トリオを結成し、演奏会やレコーディング、麻薬撲滅の親善大使として活動した。

韓国政府より文化勲章を授与、1995年には『アジア・ウィーク』が選んだ“偉大なアジアの20人”に唯一クラシック音楽の演奏家として、またイギリスのサンデー・タイムズでは、“最近20年間で最も偉大な器楽奏者”に選ばれている。

2013年の日本ツアー時には1998年にサントリーホールで行われた伝説的な2夜の公演のライブ録音が正規発売され、絶賛された。

ヴァイオリンの巨匠として、高度な技術と力強く熱い芸術性、繊細な表現力を兼ね備えたキョンファは、日々たゆまぬ努力を惜しまず今日に至るが、ロスアンジェルス・フィルハーモニックとの共演や2004年8月の日本と韓国でのチョン・トリオ公演を大成させた後、2005年9月のゲルギエフ指揮キーロフ劇場管弦楽団の韓国公演を指の故障で降板して以来、演奏会から遠ざかっていたが、2011年12月、6年間のブランクを経て演奏活動を再開。“She is Back!”と銘打ったその素晴らしいステージに、満員の観客は拍手喝采であった。その後、2013年6月には日本でのリサイタルツアーを15年振りに行い、聴衆の度肝を抜いた。

2014年の11月から12月には15年ぶりにイギリスとスコットランドを訪問、その白眉は12月2日のロンドンのロイヤル・フェスティバル・ホールでのリサイタルであった。

毎夏、韓国の江原道で開催される“Great Mountains International Music Festival”の芸術監督としても活躍している。



## ケヴィン・ケナー (ピアノ)

Kevin Kenner, Piano

1990年はピアニスト ケヴィン・ケナーにとって記念すべき年となった。彼の芸術的手腕が3つの名声ある賞の受賞によって世界に認められる年となったからである。その3つとは、ショパン国際ピアノコンクール（ワルシャワ）での最高位（同時に聴衆賞、ポロネーズ賞の受賞）、国際テレンス・ジャッド賞（ロンドン）、チャイコフスキー国際コンクール（モスクワ）での銅賞の受賞（同時にロシア作品最優秀演奏賞受賞）である。その後も1989年のヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール（フォートワース）、1988年のジーナ・バッカウアー国際ピアノコンクール（ソルトレイクシティ）の受賞と輝かしい成績を残した。

彼の演奏は世界中で絶賛されている。最新期の彼の活動にはフランス・ブリュッヘンと18世紀オーケストラの共演、Ensemble XIXとの演奏及び録音、1826年のグラフを用いてパリのシテ・ド・ラ・ミュージックでのショパン作品リサイタル、またパデレフスキ生誕150周年の記念コンサート及び録音、日本、米国、メキシコ、カナダ、ドイツ、フランス、イギリス、ポーランドでの演奏ツアー等が挙げられる。

## 相模原市民会館

〒252-0239 相模原市中央区中央3-13-15

TEL 042(752)4710 FAX 042(753)2000

http://www.sagamiharashimin-k.jp



相模原市民会館

検索

J R 横浜線「相模原駅」南口下車 徒歩20分  
・バス利用「市民会館前」下車すぐ  
・バス利用「市役所前」下車 徒歩1分

小田急線「相模大野駅」北口下車  
・バス利用「市民会館前」下車すぐ  
・バス利用「市役所前」下車 徒歩1分

※市民会館にはお客様用の駐車場はございません。  
近隣の市役所駐車場(2時間無料)をご利用頂けますが、  
駐車可能台数に限りがございますので、電車・バスでの  
ご来館をお待ちしております。

